

2018年2月5日  
九州旅客鉄道株式会社

2019年3月期第3四半期決算電話会議 主なQ&A

Q 運輸・サービスセグメントの業績予想について、前回予想と比べて営業収益と営業利益を下方修正している理由は。

A 単体の鉄道事業における補償金工事収入やJR他社との車両相互利用料の減等による営業収益の減については、収支で相殺される項目なので、営業利益にはあまり影響しない。営業利益に影響を及ぼしているのは、単体では原油高に伴う動力費の増と補償金工事を除いた修繕費の増であるが、その他グループ会社のバス事業などにおいても原油高による動力費の増がある。

Q 建設セグメントの業績予想は営業収益、営業利益ともに上方修正しているが、来期以降の傾向について教えて欲しい。

A 人件費や原材料費などの費用が当初の想定より下回る見通しとなったため、今回、業績予想の上方修正を行った。来期以降の営業収益については、今後の受注の動向にもよるので、現時点では明確に答えられない。また、費用面については、働き方改革による人件費の増加や引き続き原材料費の増加も想定されるため、状況を注視していきたい。

Q 日田彦山線の復旧に関する協議状況を教えて欲しい。

A 当社は昨年4月から関係する自治体と話し合いの場を設けて、日田彦山線の復旧に関する議論を行ってきた。これまでも様々な議論を行ってきたが、先月の検討会において収支改善目標として1.6億円を正式に表明した。「1年以内」を目標に議論を行っていきたいと考えており、現段階で復旧の可否や復旧時期について決まった事柄はない。

以上